

平成24年度 10月 経営の重点

【通うだけで楽しくてしかたがない、通うだけで助け合う力が育つ「伝説の学校」をつくろう！】

- 学校教育目標・・・「自主貢献」－自主的に行動し、助け合える生徒の育成－
- 目指す生徒像・・・的確に判断できる生徒、自主的に行動できる生徒、助け合いができる生徒
- 目指す教師像・・・一番好きになる教師、気持ちがわかる教師、学び続ける教師
- 3つの重点目標・・・プライド（12の実践）、学力向上（校内研究）、郷土愛（家庭・地域との連携）

9月の経営の重点は「笑顔創造」でした。

○ルール（マナーと規律）とリレーション（人間関係）の仕切り直し！

「時間を守る」、「感動の掃除」、「黙想と写本」は、まだまだ工夫が必要です。

○湖北中の体育祭で観に来てくださった皆さんを笑顔にし、元気にする！

3年生の生徒会総務、実行委員、応援団の成長に感謝です。体育祭の盛り上がりを点で終わらせることのないよう日常活動に反映させる必要があります。

○課題解決型の教科経営、部活動経営、学級経営、学年経営の推進！

課題解決のための場面設定がまだまだ必要です。大切なのは、先生方や生徒集団の課題意識と変化の可視化です。問題に気づかなかつたり、解決策に取り組まなかつたりというのが問題なのです。

10月の経営の重点 「学びと変容」

生徒が最も「成長する」時期になってきました。「成長する」というのは「変わる」ということです。そして「変容」は「学び」によってもたらされます。陽明学では「知行合一」と唱え、貝原益軒は「生れて学ばざれば、生れざるに同じ。学んで知らざれば、学ばざるに同じ。知って行わざれば、知らざるに同じ。」と言っています。今月は、多くの「学ぶ」機会が設定されています。何を学び、どう行動化していくのかが問われる月になります。学んだことを行動に移すという「変わること」に前向きでありたいと思います。校長室に掲げてある湯川秀樹博士直筆の「学而不厭」のように「学び続けることを厭わない」生徒、教師でありたいと考えます。

○「学力向上研究推進指定校」としての公開研究に全職員で取り組みます。

学校教育法第30条2項に「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」とあります。「学力」の要素を①基礎的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学習意欲、と明確に定義しています。

「伝説の学校」の学力は、「自主貢献（自ら適切に判断・行動し、助け合える生徒）」を実現する力です。学力を向上させることは、思考力、判断力、コミュニケーション力、一歩踏み出す意欲（前述②③）を育てていくことである。それ故以下の研究が有効になるのである。

- ・日頃の授業を講義形式の授業ではなく、課題解決型の授業（できた！わかった！）に変えます。
- ・グループ学習等の学習形態を工夫し、学び合う関係（「教えて」「いいよ」）を築きます。
- ・家庭学習の習慣化（自分から学習に向き合う）に全校で取り組みます。

○「スモールステップで自己肯定感を高める取り組み」を全校で推進します。

認められるネタや誉められるネタを意図的につくる。

- ・参観者に元気と笑顔を与える教室環境、学年環境、学級環境
- ・学級改善に期間を決め具体的に取り組む…「家庭学習を2時間確保しよう」「いじめをなくそう」